

ストックホルム 2010 年 6 月 11 日
水銀に関する第 1 回政府間交渉会議 (INC-1)
“水俣条約”に対する化学物質問題市民研究会の発言

議長、大変ありがとうございます。

私は日本の化学物質問題市民研究会 (CACP) から参加しております。
私の発言は、この歴史的な水銀条約を“水俣条約”と呼ぶとする日本政府の提案に関する内容です。

水俣条約と命名するという事は、人の水銀中毒というこの悲劇を、人の健康と環境を保護するための私たちの世界的な取り組みに直接的に結びつけることです。もしこの条約にこのような名前を付けるなら、私たちは水俣に敬意を払い、そこからの経験を学ばなくてはなりません。

チッソはある産業プロセスで水銀を使用しました。それが引き起こした大惨事は、水銀条約が水銀を使用した製品とプロセスを持続可能で毒性のないものに代替しなくてはならないということを私たちに教えています。

チッソによる水俣湾への水銀の排出と汚染は、汚染者支払い原則 (Polluter Pays Principle) と汚染場所浄化の企業責任の必要性について私たちに教えています。

水俣では 3 万人以上の人々が恐ろしい病気の被害を受け、多くの人々が認定を求めて戦わなくてはなりません。この悲劇にちなんだ名前が付けられる条約に、被害者と地域に対する責任と補償のための措置を含めなくてはなりません。

水俣の人々は彼らの魚介類や環境中の水銀についてなにも情報を与えられていませんでした。水俣の名前が付けられる条約は、このような状況を正さなくてはなりません。その条約は市民の知る権利を尊重しなくてはなりません。情報は自由にアクセスでき、理解しやすいものでなくてはなりません。

水俣の人々が食べ水銀中毒になった汚染魚介類はまた、蛋白源として魚に依存する世界中の全ての人々にも中毒をもたらします。水俣の名前が付けられる条約は、その効果を監視するために魚類と人体内の水銀に関する世界規模の監視システムを確立しなくてはなりません。

議長、結論を申し上げます。

水俣は単に地名だけの事、あるいは病名だけの事ではありません。それは、悲劇について、苦痛について、企業の無責任について、被害について、そして差別について語るものです。

水俣は地域の人々の事です。それは被害者が生き残るための戦いについて、そして生きることを決意することについて物語るものです。これが真の水俣です。条約制定のための会議において、私たちはこの真の水俣のことを大事にし、敬意を払い、それに恥じないようにしなくてはなりません。

私たちは、人間の活動に由来する全ての水銀を廃絶する強い国際条約のために真の行動を起こすことにより、私たちの敬意を示すことができるのです。

どうもありがとうございました。